

2017年11月期 決算説明資料



平成30年1月12日
ニッケ(日本毛織株式会社)
東証第1部 3201

2017年11月期 ハイライト



2017年11月期実績は売上、各利益とも過去最高値を更新
営業利益は8期連続で前期比増益を達成

売上高 1,034.9億円 (前期比 2.5%増 ↑)

営業利益 83.4億円 (前期比 9.6%増 ↑)

経常利益 90.8億円 (前期比 18.8%増 ↑)

親会社株主に帰属する

当期純利益 52.7億円 (前期比 5.4%増 ↑)

目次

I. 2017年11月期 実績	P 4～
II. 2018年11月期 業績予想	P 13～
III. 株主還元	P 23～
IV. トピックス	P 27～
V. 参考資料	P 32～

I.2017年11月期 実績

衣料繊維事業



産業機材事業



人とみらい開発事業



生活流通事業



連結業績の概要について



2017年11月期の実績は前期比で増収増益

	実績			前期比増減		2017年度 当初業績予想 進捗(%)
	2015年度 (百万円)	2016年度 (百万円)	2017年度 (百万円)	金額(百万円)	比率(%)	
売上高	102,854	100,982	103,498	2,516	2.5%	96.7%
営業利益	7,342	7,620	8,348	728	9.6%	112.8%
(営業利益率)	7.1%	7.5%	8.1%	0.5%	—	—
経常利益	7,799	7,649	9,089	1,440	18.8%	118.0%
特別損益	-688	-59	-1,038	-980	—	—
親会社株主に帰属する 当期純利益	4,690	5,002	5,270	268	5.4%	103.3%
ROE	5.9%	6.2%	6.2%	0.0%	—	—

当期は前期比で売上高が増収、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益ともに、増益。業績予想との比較では、各利益で予想を上回る。

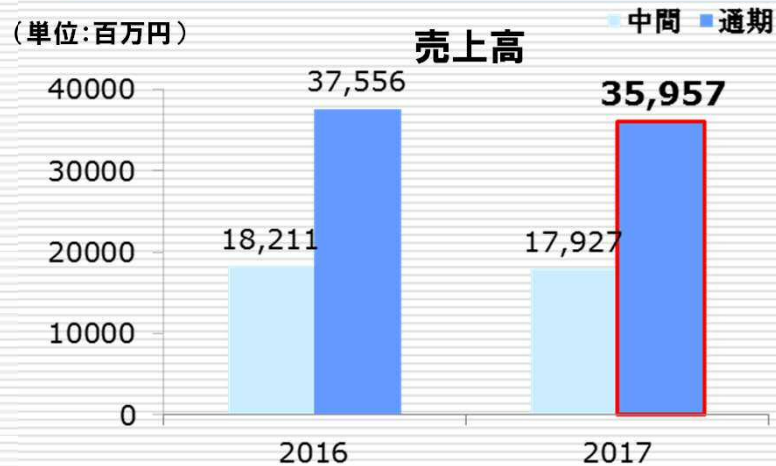
セグメント別業績の概要

セグメント別では衣料繊維事業が苦戦するも、他事業は堅調に推移

セグメント	項目	実績		前期比増減	
		2016年度 (百万円)	2017年度 (百万円)	金額(百万円)	比率(%)
衣料繊維	売上高	37,556	35,957	-1,599	-4.3%
	営業利益	2,610	2,017	-592	-22.7%
	(営業利益率)	6.9%	5.6%	-1.3%	-
産業機材	売上高	18,775	20,545	1,769	9.4%
	営業利益	1,023	1,657	633	61.9%
	(営業利益率)	5.4%	8.1%	2.6%	-
人とみらい開発	売上高	34,592	34,470	-121	-0.4%
	営業利益	5,108	5,485	376	7.4%
	(営業利益率)	14.8%	15.9%	1.1%	-
生活流通	売上高	10,055	12,523	2,468	24.5%
	営業利益	498	656	158	31.8%
	(営業利益率)	5.0%	5.2%	0.3%	-
その他調整額	営業利益	-1,621	-1,469	152	-
合計	売上高	100,982	103,498	2,516	2.5%
	営業利益	7,620	8,348	728	9.6%
	(営業利益率)	7.5%	8.1%	0.5%	-

注)売上高には、セグメント間の売上高を含みません。

衣料繊維事業の概況



売上高 35,957百万円 前期比 4.3%減↓

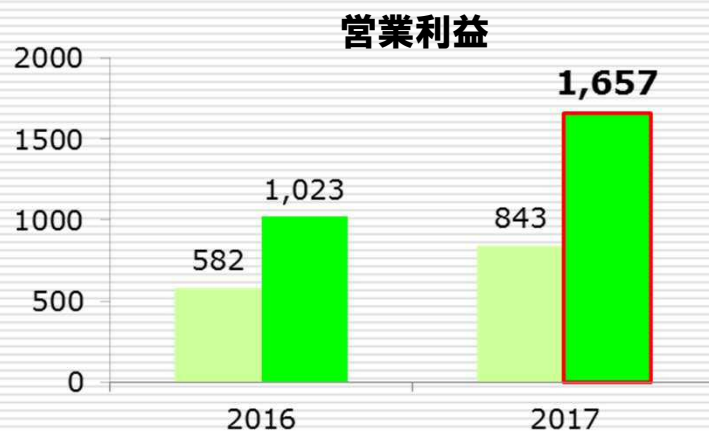
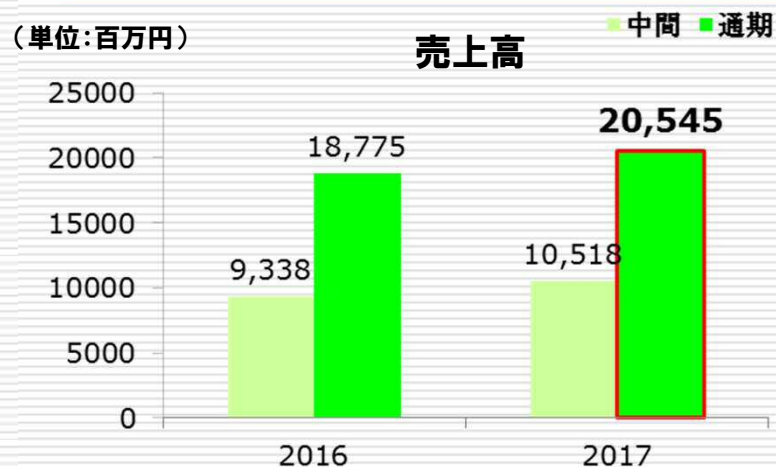
営業利益 2,017百万円 前期比 22.7%減↓



<業績概要>

売糸事業で秋冬物衣料の販売不振長期化による需要減少や、一般企業用制服素材で大口径物件の更改需要が低調だった影響等で、減収となりました。加えて、羊毛原料価格の高騰や、海外工場の稼働率低下、戦略投資やシステム投資等による経費増により、減益となりました。

産業機材事業の概況



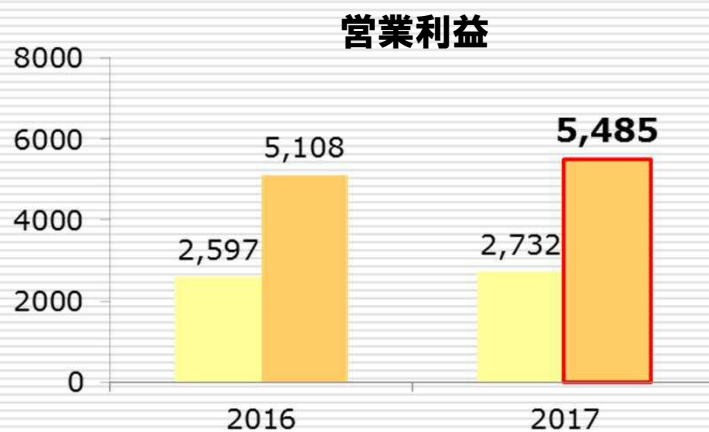
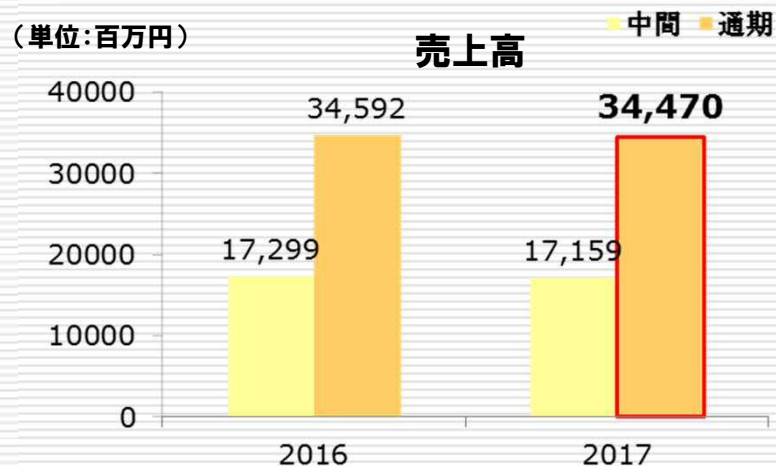
売上高 20,545百万円 前期比 9.4%増↑

営業利益 1,657百万円 前期比 61.9%増↑

<業績概要>

車載電装品製造ラインのファクトリーオートメーション(FA)装置が引き続き順調に推移し増収となりました。加えて、自動車生産増加に伴い、車両用資材が好調に推移した事や中国向けの環境用フィルターや楽器用フェルトが好調で、増益となりました。

人とみらい開発事業の概況



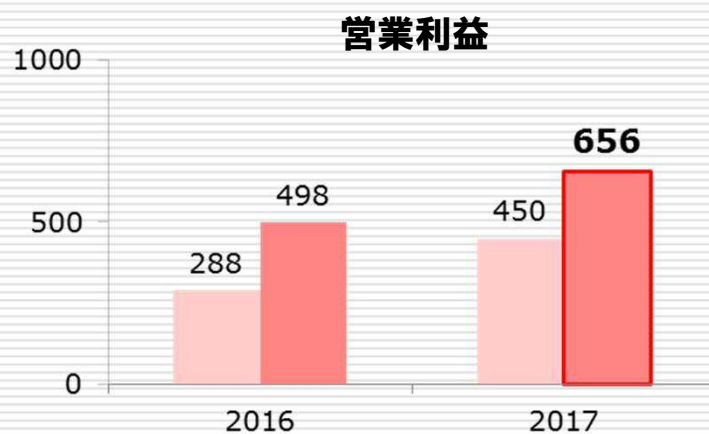
売上高 34,470百万円 前期比 0.4%減 ↓

営業利益 5,485百万円 前期比 7.4%増 ↑

<業績概要>

携帯電話販売事業やビデオレンタル事業において店舗再編を進めた事や建築工事が減少した影響等により、微減収となりましたが、昨年本館をリニューアルした「ニッケパークタウン」等、商業施設運営事業が好調に推移した結果、増益となりました。

生活流通事業の概況



売上高 12,523百万円 前期比 24.5%増 ↑

営業利益 656百万円 前期比 31.8%増 ↑

<業績概要>

家具卸販売会社のミヤコ商事(株)とスタンプ販売の(株)こどものかおが今期より連結対象に加わった事や業務用寝装品が好調だった為、増収となりました。加えて、寝装品及びインテリア用品を主とするEコマース事業において、冬物軽寝具の販売が好調に推移し、増益となりました。

連結 貸借対照表/CF サマリー

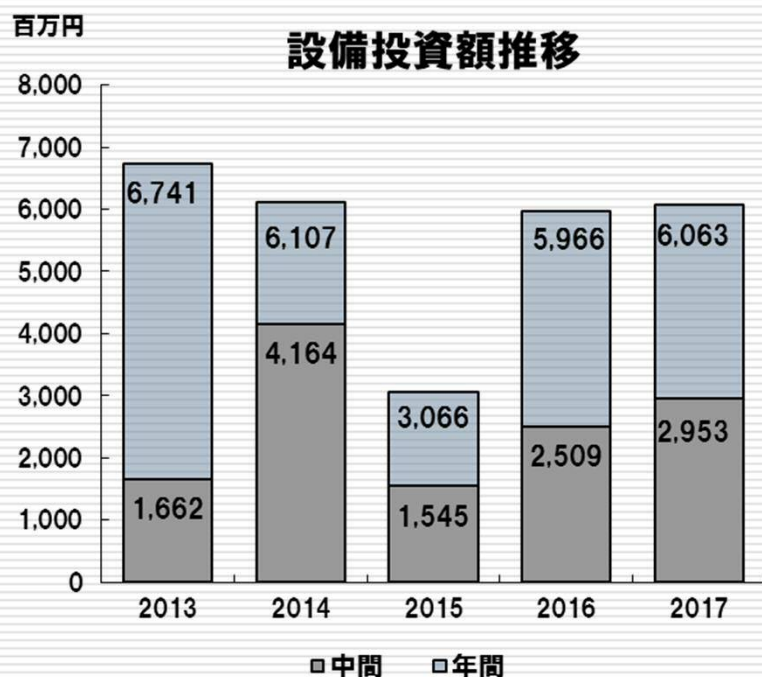


(単位:百万円)

連結貸借対照表	2016年度 期末	2017年度 期末	増 減
流動資産	63,921	65,815	1,894
固定資産	67,422	75,308	7,886
資産合計	131,343	141,124	9,780
流動負債	31,579	34,814	3,235
固定負債	17,608	17,241	-367
負債合計	49,188	52,056	2,868
株主資本	76,754	80,352	3,597
その他包括利益累計額	4,451	7,666	3,214
非支配株主持分	949	1,048	99
純資産合計	82,155	89,067	6,911
負債・純資産合計	131,343	141,124	9,780
自己資本比率	61.8%	62.4%	0.6%

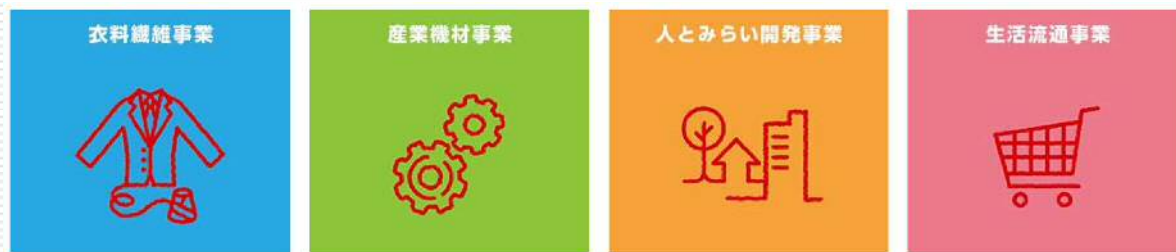
連結C/F計算書	2016年度 通期累計	2017年度 通期累計	増 減
営業活動によるキャッシュ・フロー	9,514	9,206	-308
投資活動によるキャッシュ・フロー	-6,590	-6,695	-105
財務活動によるキャッシュ・フロー	-3,361	-743	2,617
トータルキャッシュフロー	-437	1,766	2,204
現金及び現金同等物の増減	17	-172	-189
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	0	95	95
連結除外に伴う現金及び現金同等物の減少額	0	-4	-4
現金及び現金同等物の四半期末残高	14,265	15,951	1,685

設備投資額/減価償却費推移 過去5年



2017年11月期の設備投資実績(資産計上)は約60億円で、主には介護施設2拠点新設 約18億円、SCリニューアル関連 約10億円、衣料繊維新規設備投資 約10億円等です。

II. 2018年11月期 業績予想



2018年11月期 業績予想の概要



2018年11月期の業績は、売上高では増収を見込むも、利益面では先行投資等の影響で減益の予想。

売上高 1,130.0億円（前期比 9.2%増 ↑）

営業利益 80.0億円（前期比 4.2%減 ↓）

経常利益 85.0億円（前期比 6.5%減 ↓）

親会社株主に帰属する

当期純利益 53.0億円（前期比 0.6%増 ↑）

事業環境認識

事業部	事業環境
衣料繊維事業	スクールユニフォーム:国内市場は緩やかに縮小 ビジネスユニフォーム:2018年はオリンピック特需の見込み 売糸:国内毛糸(ウール)市場は縮小 海外市場:ユニフォーム、テキスタイル、売糸とも市場拡大の見込み 羊毛原料価格:中国の需要が旺盛、引き続き高止まりの見込み
産業機材事業	産業資材:車両と環境分野は中国市場で拡大の見込み 生活用資材:テニスガット、釣り糸とも国内市場は成熟 産業用機械:工場の省力化、自動化の波が今後も持続
人とみらい開発事業	SC・不動産:国内市場は飽和状態 介護・保育事業:国内市場は拡大の見込みも競争激化
生活流通事業	Eコマース:市場拡大の見込み ホビークラフト:海外市場は拡大の見込み (スタンプ・インク)

2018年11月期 重点方針

“未開の分野に目を向け、「高機能商品」「地域No1サービス」の開発と提供へ挑戦し、みらい生活創造企業を目指す。”

- ①成長ドライバーの育成
- ②構造改革の推進
- ③グローバル展開の推進
- ④資本効率を意識した事業運営
- ⑤チャレンジする人財の育成と成果に報いる人事制度の開発
- ⑥コンプライアンスの徹底による信頼される企業グループづくり

2018年11月期 業績予想



2018年11月期の業績予想は前期比で増収減益の見通し

	2016年度 実績 (百万円)	2017年度 実績 (百万円)	2018年度 業績予想 (百万円)	前期比増減		(参考) 2019年度 中期経営計画 (百万円)
				金額(百万円)	比率(%)	
売上高	100,982	103,498	113,000	9,502	9.2%	120,000
営業利益	7,620	8,348	8,000	-348	-4.2%	9,000
(営業利益率)	7.5%	8.1%	7.1%	-1.0%	—	7.5%
経常利益	7,649	9,089	8,500	-589	-6.5%	—
親会社株主に帰属する 当期純利益	5,002	5,270	5,300	30	0.6%	6,300
ROE	6.2%	6.2%	6.0%	-0.2%	—	7.0%

2018年11月期通期の業績予想は、売上高1,130億円、営業利益80億円、経常利益85億円、親会社株主に帰属する当期純利益53億円、ROEは6.0%以上の見通し。衣料繊維事業では業績の回復を見込むも、人とみらい開発事業での先行投資等により、減益の予想。

セグメント別業績予想



セグメント	項目	2016年度 実績 (百万円)	2017年度 実績 (百万円)	2018年度 業績予想 (百万円)	前期比増減		(参考) 2019年度 中期経営計画 (百万円)
					金額(百万円)	比率(%)	
衣料繊維	売上高	37,556	35,957	39,100	3,143	8.7%	44,000
	営業利益	2,610	2,017	2,500	483	23.9%	3,300
	(営業利益率)	6.9%	5.6%	6.4%	0.8%	-	7.5%
産業機材	売上高	18,775	20,545	22,100	1,555	7.6%	22,000
	営業利益	1,023	1,657	1,500	-157	-9.5%	1,692
	(営業利益率)	5.4%	8.1%	6.8%	-1.3%	-	7.7%
人とみらい開発	売上高	34,592	34,470	37,600	3,130	9.1%	40,000
	営業利益	5,108	5,485	5,250	-235	-4.3%	6,250
	(営業利益率)	14.8%	15.9%	14.0%	-1.9%	-	15.6%
生活流通	売上高	10,055	12,523	14,200	1,677	13.4%	15,000
	営業利益	498	656	640	-16	-2.4%	711
	(営業利益率)	5.0%	5.2%	4.5%	-0.7%	-	4.7%
その他調整額	売上高	0	0	0	0	0	-1,000
	営業利益	-1,621	-1,469	-1,890	-421	-	-2,953
合計	売上高	100,982	103,498	113,000	9,502	9.2%	120,000
	営業利益	7,620	8,348	8,000	-348	-4.2%	9,000
	(営業利益率)	7.5%	8.1%	7.1%	-1.0%	-	7.5%

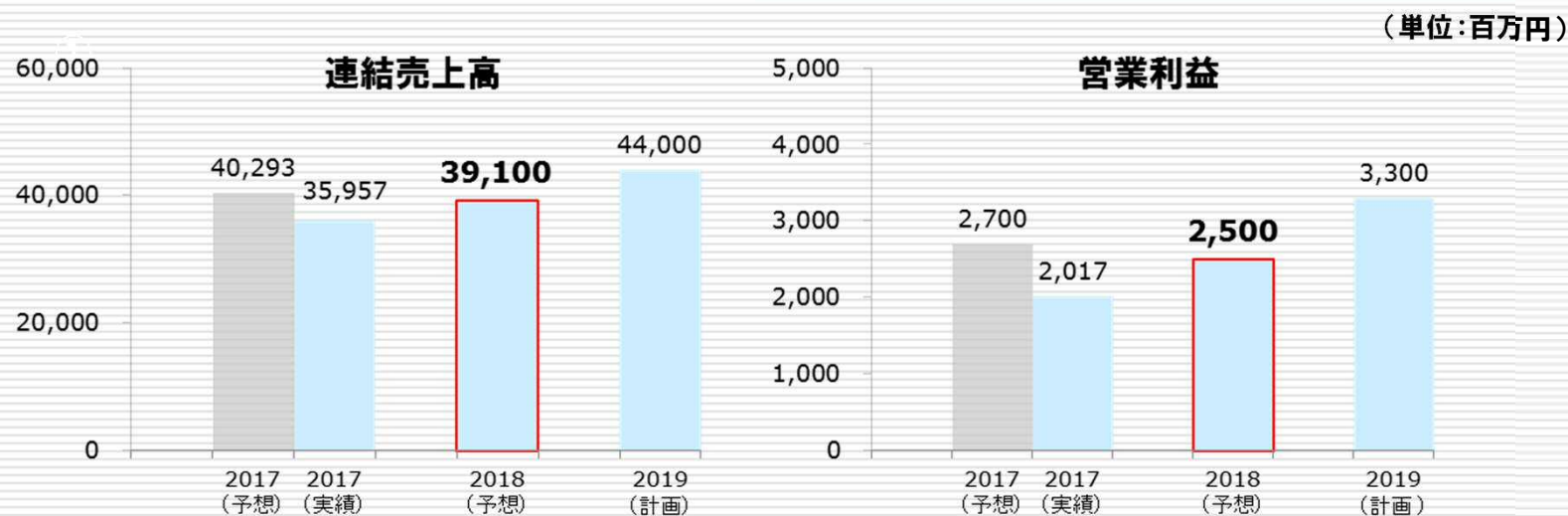
注)売上高には、セグメント間の売上高を含みません。

衣料繊維事業のRN130第1次中計進捗



2018年業績予想(RN130第1次中計2年目)

売上高 39,100百万円 前期比 8.7%増↑ 営業利益 2,500百万円 前期比 23.9%増↑



<RN130第1次中計進捗状況>

2017年度は当初業績予想に対し減収減益。2018年度以降は下記施策に重点的に取り組み、2019年度の計画達成を目指す。

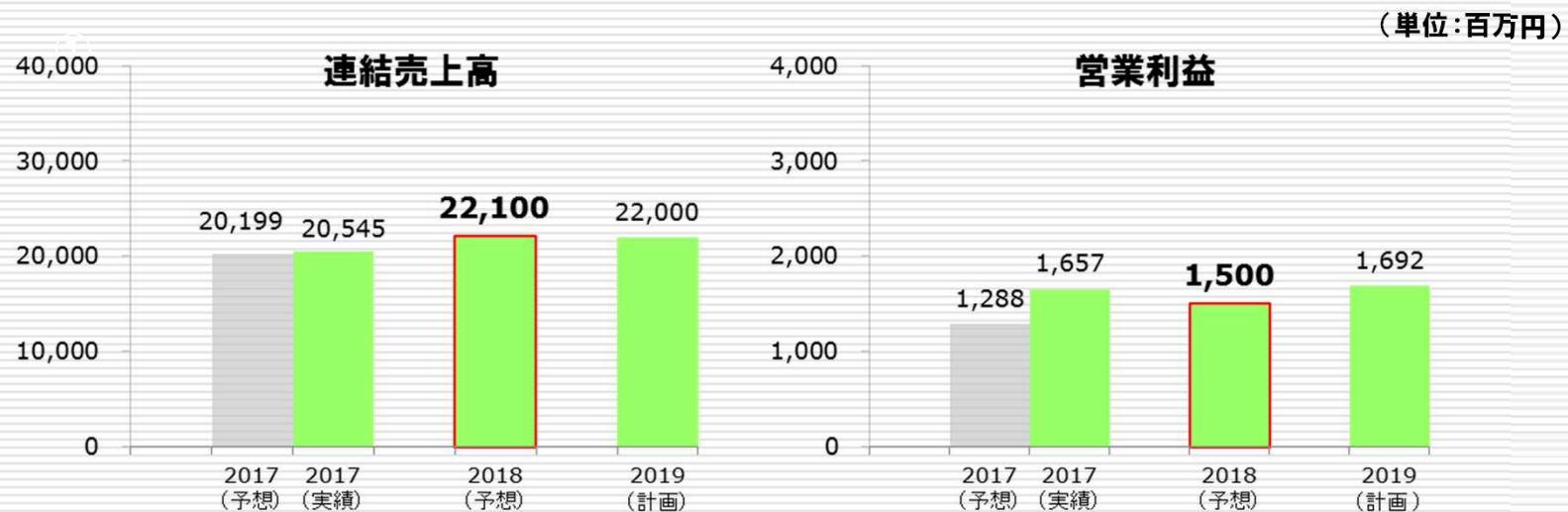
- ①戦略商材「MIRAIZ」の拡販 ⇒ MIRAIZブランドの市場への浸透。セーラー服に続き詰襟の展開に着手。
- ②海外向け売糸、テキスタイル事業の拡大 ⇒ 差別化・高付加価値品の拡販。
- ③機能素材(防災素材・防刃素材等)の国内外への販売促進 ⇒ ニッセイ独自の技術を活かし、新規市場を創出。

産業機材事業のRN130第1次中計進捗



2018年業績予想(RN130第1次中計2年目)

売上高 22,100百万円 前期比 7.6%増↑ 営業利益 1,500百万円 前期比 9.5%減↓



<RN130第1次中計進捗状況>

2017年度は当初業績予想に対し増収増益。2018年度以降は下記施策に重点的に取り組み、2019年度の計画達成を目指す。

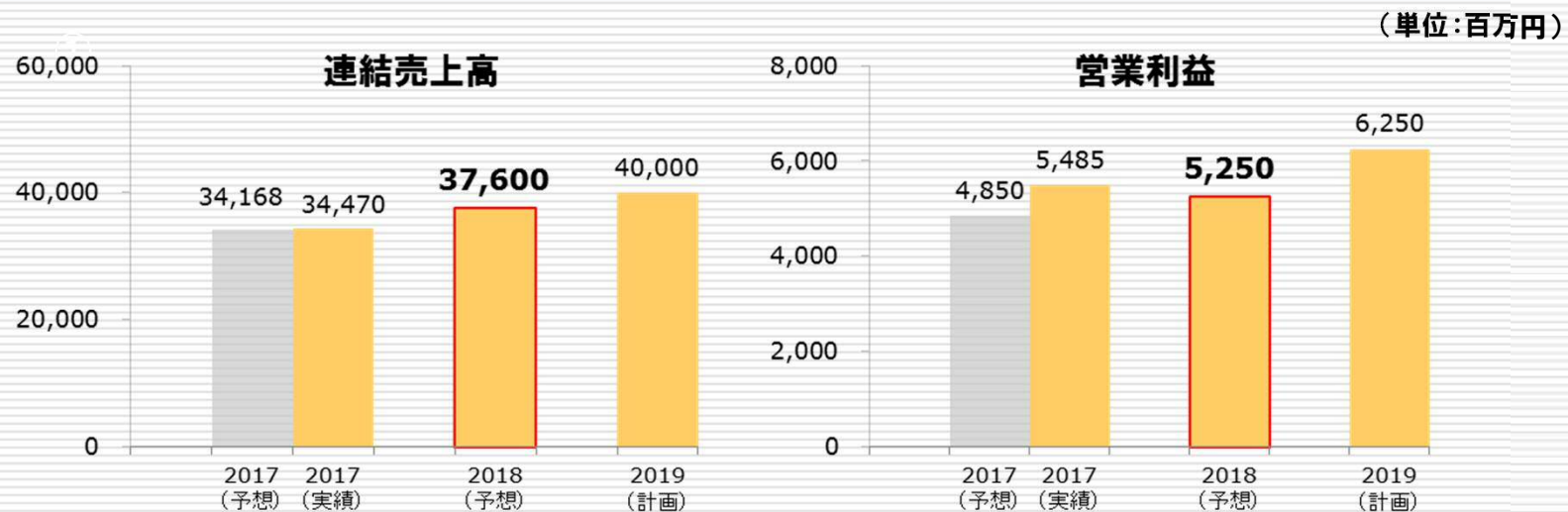
- ①産業用資材は成長分野の車両用と環境向けで海外事業を拡大 ⇒ 2017年10月グループに加わった海外商社(株)エミーと連携。
- ②生活用資材は「GOSEN(ゴーセン)」ブランドを確立し海外へ展開 ⇒ 販売チャネルの複線化とプロモーション強化。
- ③産業用機械は海外で通用する設計・サービス・コストを実現 ⇒ 名古屋工場を新設し国内製造を強化。顧客の信頼を維持。

人とみらい開発事業のRN130第1次中計進捗



2018年業績予想(RN130第1次中計2年目)

売上高 37,600百万円 前期比 9.1%増↑ 営業利益 5,250百万円 前期比 4.3%減↓



<RN130第1次中計進捗状況>

2017年度は当初業績予想に対し増収増益。2018年度以降は下記施策に重点的に取り組み、2019年度の計画達成を目指す。

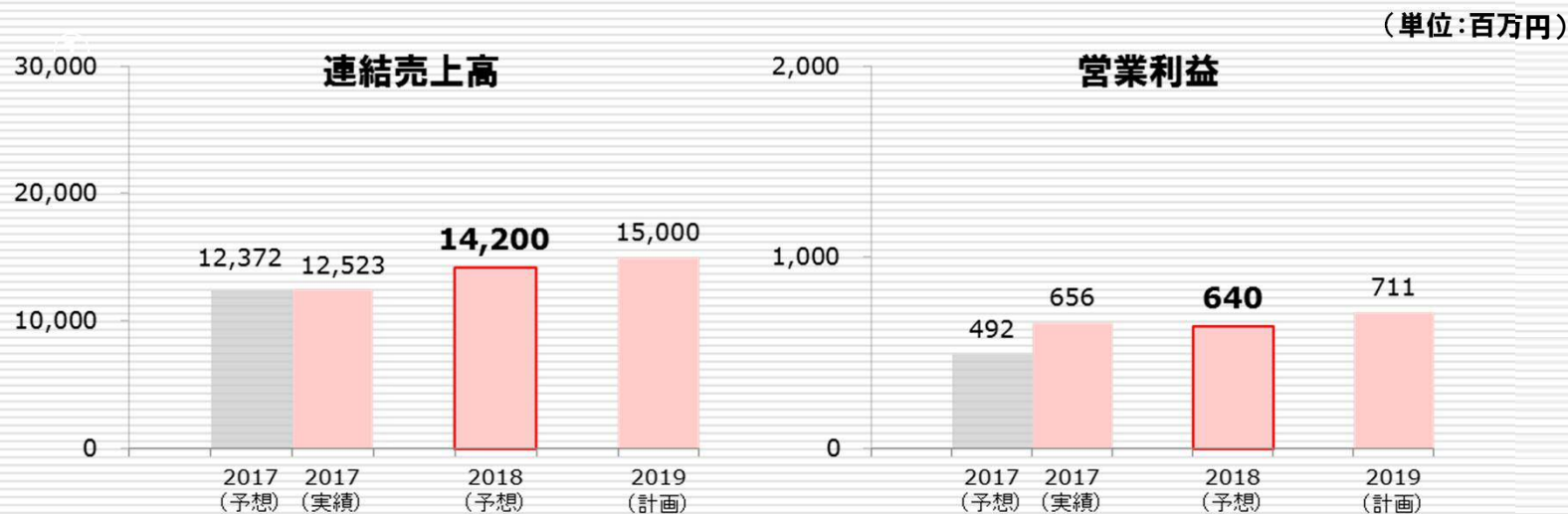
- ①資産効率の改善と、共同プロジェクトによる新規事業立ち上げ ⇒ SCリニューアルや遊休地等の再開発に着手。
- ②介護・保育事業の運営の安定化 ⇒ 2017年度以降に開業の介護施設2拠点、認可保育所2拠点の運営を軌道に乗せる。
- ③フランチャイズ事業等の更なる拡大 ⇒ 引き続き新規出店を予定。

生活流通事業のRN130第1次中計進捗



2018年業績予想(RN130第1次中計2年目)

売上高 14,200百万円 前期比 13.4%増↑ 営業利益 640百万円 前期比 2.4%減↓



<RN130第1次中計進捗状況>

2017年度は当初業績予想に対し増収増益。2018年度以降は下記施策に重点的に取り組み、2019年度の計画達成を目指す。

- ①グループ会社間の連携強化による価値創造 ⇒ クロスセル、共同仕入、展示会共催等を実施。
- ②Eコマース事業の拡大 ⇒ プラットフォームの構築と新たな物流拠点の確立に着手。

III. 株主還元

衣料繊維事業



産業機械事業



人とみらい開発事業



生活流通事業

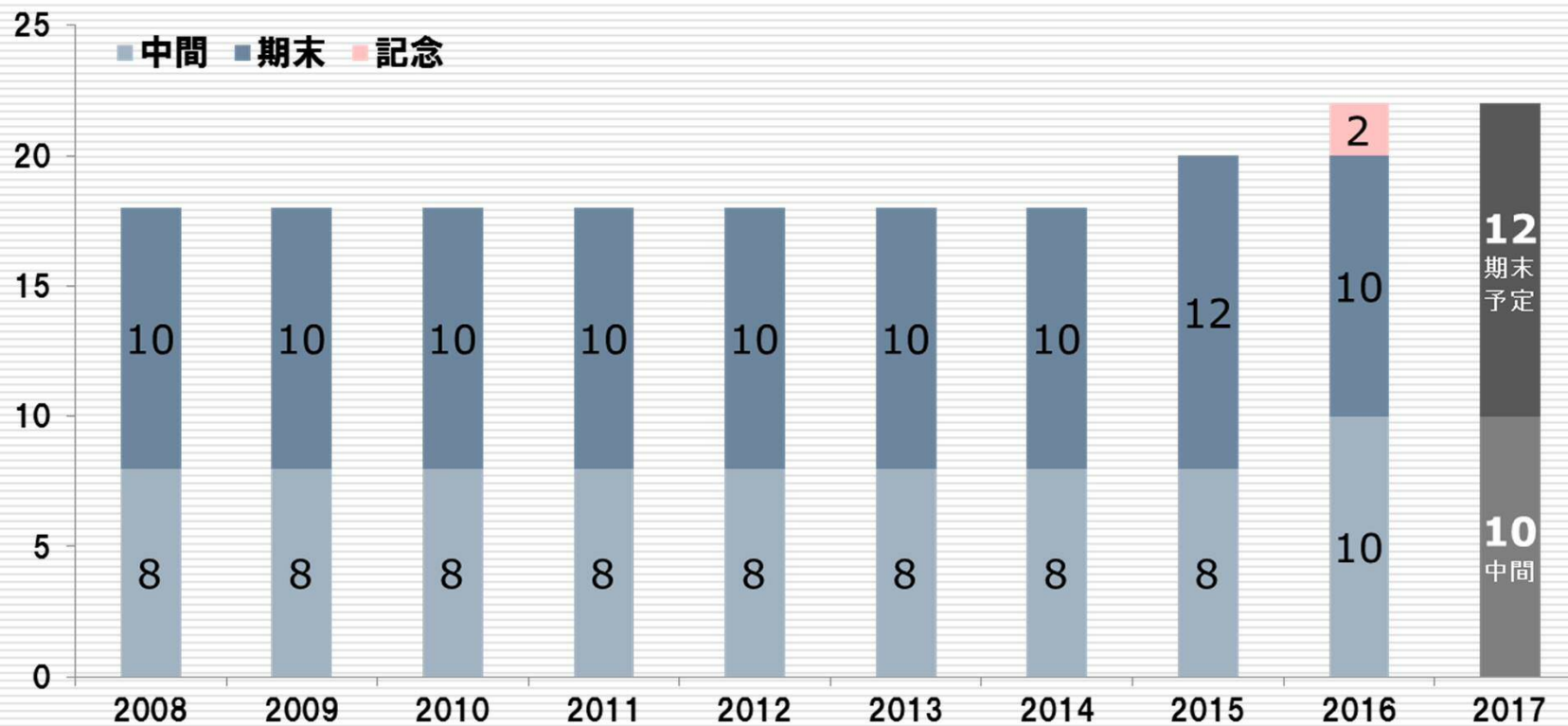


資本政策・株主還元

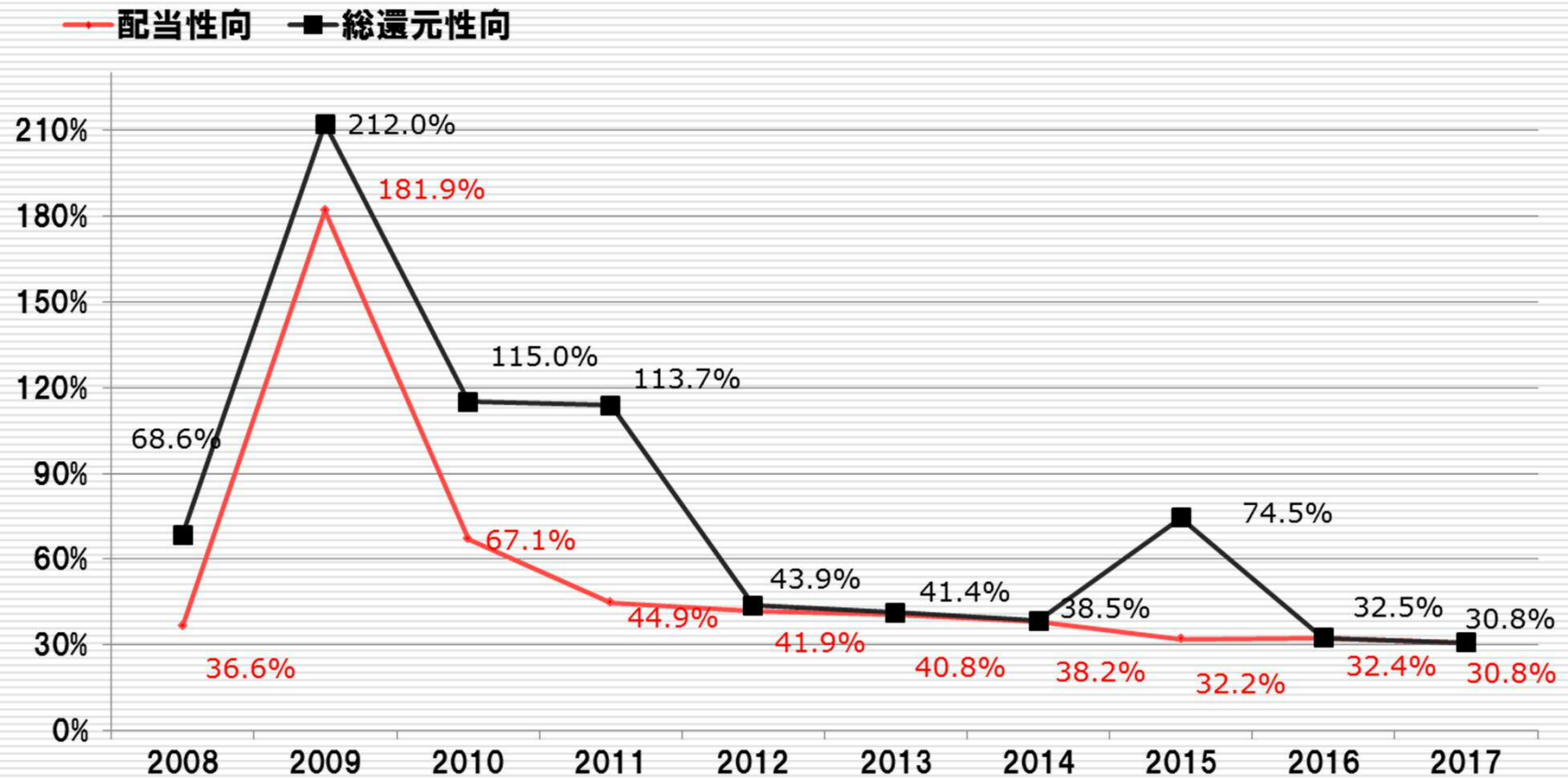
- ①成長投資と安定的な株主還元のバランスを志向する。
- ②成長投資については、研究開発投資、M&A投資、設備投資、人財投資など、中長期的な企業価値の向上の観点から積極的に実行する。
- ③株主還元については、減配しない安定的な配当政策を継続する。配当性向30%以上を目指し、利益水準に応じて配当を引き上げていく。自己株式取得を含む総合的な株主還元を充実させる。

1株あたり配当

2017年11月期は、1株あたり2円増配し年間22円を予定



配当性向・総還元性向



IV. トピックス

衣料繊維事業



産業機材事業



人とみらい開発事業



生活流通事業



株式会社エミーの株式取得（2017年10月）



2017年10月に当社は機械商社の株式会社エミーを完全子会社化しました。エミーは、大阪市で電気絶縁材料などの産業資材、タイヤ製造向けのプラント設備等の輸出入を行っており、中国やインド、タイ、台湾、韓国、マレーシア、アメリカ、カナダ、オーストラリアなど世界22カ国の取引先に対し、多種多様な製品を販売しております。今後、産業機材事業において海外販売体制強化と海外売上上の増強に向け、シナジー効果の発揮を目指して参ります。

<株式会社エミー概要>

代表者：豊澤 健
本店所在地：大阪市中央区南久宝寺町4-6-13 エミービル
設立年月日：1976(昭和51)年3月22日
資本金：4,000万円
従業員数：35名
主な事業内容：産業資材、プラント設備等の輸出入
売上高(直近期)：22億円



PI Foam



Laminated Sheet



Adhesive Tape



Engineering Plastics

(電気部材)



3WAY PI/ION VALVE



PI GENERATOR



PI/EPURE VALVE

PI/EPURE SWITCH

(産業機器)

「工房からの風」 2017年度グッドデザイン賞受賞

ニッケ グループ



グッドデザイン賞 受賞



「工藝と庭を巡る人の輪づくりー工房からの風」が、
2017年グッドデザイン賞に選ばれました。
Activity (取り組み) 地域・コミュニティづくり/社会貢献活動部門

ニッケが所有運営するショッピングセンター「ニッケコルトンプラザ(千葉県市川市)」での活動「工藝と庭を巡る人の輪づくりー工房からの風」が、2017年度グッドデザイン賞を受賞しました。新人工芸作家の発掘と支援を行う野外工芸展と、自然環境を生かした庭造りの二つの活動で、ものづくりを通じた交流の場を継続して創り出している点が特に評価されました。



株式会社ニッケライフの保育事業の拡大

ニッケ グループ

株式会社ニッケライフは、2017年10月に認可保育園「ぼっかぼっかにつけ保育園(兵庫県加古川市)」をオープンしました。また、2018年4月には「ぼっかぼっかにつけ保育園北方(千葉県市川市)」をオープンする予定です。加えて学童保育事業としてフランチャイズ運営の「Kids Duo あざみ野(神奈川県横浜市)」を2017年6月、「Kids Duo 緑地公園(大阪府吹田市)」を2017年11月に立て続けにオープンしました。保育事業の運営は“人と地球に「やさしくあったかい」”ニッケグループの経営理念を体現する事業と認識し、引き続き注力してまいります。



2018年
4月
オープン
(予定)

ぼっかぼっかにつけ保育園北方

<株式会社ニッケライフ概要>

代表者：川野 玲
本社所在地：兵庫県加古川市加古川町本町239番地の1
資本金：5,000万円
主な事業内容：認可保育所の運営、学童保育所の運営
施設：ぼっかぼっかにつけ保育園
ぼっかぼっかにつけ保育園北方(2018/4OPEN予定)
キッズデュオあざみ野
キッズデュオ緑地公園

英語で預かる
学童保育・プリスクール
英語で遊ぶ、学ぶ
Kids Duo
After School Care
Pre School Care



ニッケグループ統合報告書2017発行



ニッケグループはステークホルダーの皆様にご理解をより深めて頂く為に、今後も開示資料の充実を図って参ります。引き続きご支援賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

ニッケグループ統合報告書は下記URLにて開示しております。
http://www.nikke.co.jp/ir/integration_report/



みらい生活創造企業にふさわしい魅力的な事業を創造します

2016年12月3日に創立120周年を迎えた当社は伝統を大切にしながら、立ち止まらず革新と挑戦を重けてきました。「革新を続ける事で、120年に及ぶ伝統を作り上げてきた」のです。この流れをチャレンジ精神の源流は、創業時「川西清兵衛」の精神にあると考えております。川西翁は「一以貫之（いつをもってこれを専らぬ）」という信念の元、「忠恕（真心と恕の心）を持って、勤めぬ精神」を大切に、また賢業という点では名譽を重るにも「よく調べ、かつ業も叩いてみよ」というくらい慎重な心掛けでした。

しかし、何よりもその精神の次にあったものは「着目すべき事業」です。川西翁は常に「職種の少業」に「チャレンジ」を続けました。そしてその思いは、「経営理念」人と地盤に「やさしく、あったかい企業グループ」として、私自身も誇りと誇りをもってチャレンジして行きます」として、現在も続いています。ニッケグループは「飲料罐頭事業」「畜産物事業」「人とあらい（関係事業）」「生活消費事業」の4つの事業をそれぞれ事業と位置づけ、中長期ビジョンが130ビジョンでは、スクールユニフォームで確固たる基礎を持つ「飲料罐頭事業」や不動産事業や商業施設運営事業を主とする「人とあらい関係事業」での安定収益をベースに、更なる

成長に向けた積極的な投資とチャレンジする人材育成に取り組んで行くと考えています。

現在、ニッケグループは国内外で約50社によるまで増加し、業種も多様化しています。私は社長就任以来、各グループ会社やその関係先を訪問しましたが、その中身はこの10年間で大きく変わりました。そして、今後10年間でその価値はさらに大きく変わっていくと信じています。魅力的な事業を創造するみらい生活創造企業を目指し、各事業がその立場の責任に対して「しなやかに」変化を続けていくグループ経営をこれからも目指していきます。

ニッケグループ代表取締役社長
 高田一弥



V. 参考資料

会社概要



会社名	日本毛織株式会社(通称ニッセイ)
本社	大阪府中央区瓦町3丁目3-10
代表者	代表取締役 富田 一弥
設立	1896年(明治29年)12月3日
資本金	6,465百万円
連結売上高	103,498百万円(2017/11時点)
従業員数	連結:4,899名 単体:510名(2017/11時点)
上場区分	東証1部
単元株	100株

沿革

1896年(明治29年)	日本毛織株式会社を設立(12月)		1896年(明治29年)	日本毛織株式会社を設立(12月)	
1899年(明治32年)	加古川工場操業開始		1996年(平成8年)	ニッケ創立100周年を迎える 一宮市に「ニッケ創作工房」を開設	
1900年(明治33年)	陸海軍省に初めて毛布を納入		1998年(平成10年)	中国青島市に「青島日毛織物有限公司」設立	
1901年(明治34年)	ラシャの製造開始		2002年(平成14年)	東京支社を八重洲に移転 「ブルミエール・ヴィジョン」にアジアから初めて出展 アンビック(株)を子会社化 中国の江陰日毛紡績有限公司買収	
1912年(明治45年)	梳毛糸・モスリンの製造開始		2003年(平成15年)	株式会社ジー・シー・シーを子会社化	
1919年(大正8年)	印南工場操業開始		2006年(平成18年)	株式会社コーセンを子会社化	
1937年(昭和12年)	神戸市神戸区明石町47に本社ビル(現本店)建設		2007年(平成19年)	「ニッケグループ中長期ビジョン(NN120ビジョン)」策定 定年制65歳に延長決定	
1949年(昭和24年)	東京証券取引所1部に上場(5月16日)		2008年(平成20年)	通称社名「ニッケ(NIKKE)」を採用 組織改正により6つの事業領域に区分	
1956年(昭和31年)	ニホンケオリ・アルゼンチナ設立(1981年閉鎖) 昭和天皇・皇后両陛下が加古川工場に行幸啓		2012年(平成24年)	日毛(上海)管理有限公司を設立 安碧克(上海)貿易有限公司を設立 コーセン・タイランド社を設立 組織改正により4つの事業領域に区分	
1958年(昭和33年)	鶴沼工場(現岐阜工場)操業開始		2013年(平成25年)	(株)ツキネコを子会社化 ニッケまちなか発電所明石土山開業 ニッケ・タイランド設立	
1964年(昭和39年)	日本でのウールマークの使用認可第1号を取得		2014年(平成26年)	ニッケテキスタイル(株)設立	
1970年(昭和45年)	機械製作所設置(1978年株式会社ニッケ機械製作所として独立)		2015年(平成27年)	本社ビル1階に事業紹介コーナーを開設 日本バムコ(株)を子会社化 杉本織物(株)を子会社化 一宮事業所の紡績・整理技術を岐阜工場、印南工場へ	
1984年(昭和59年)	加古川市にショッピングセンター「ニッケパークタウン」をオープン		2016年(平成28年)	ミヤコ商事(株)を子会社化 (株)こどものかおを子会社化 「ニッケグループ中長期ビジョン(RN130ビジョン)」策定 創立120周年を迎える	
1988年(昭和63年)	市川市にショッピング・飲食・スポーツなどの複合施設「ニッケコルトンプラザ」をオープン				
1991年(平成3年)	大阪市中央区瓦町3-3-10に現ニッケ本社ビル完成				
1995年(平成7年)	双洋貿易(株)を買収、馬具・乗馬用品の製造・販売事業へ進出				

事業概要 衣料繊維事業



衣料繊維事業

成り立ち・変遷

衣料繊維事業は120年の技術を生かしたウール由来の先端素材やハイブリッド素材の開発に取り組んでいます。学生服市場において、確かな品質と洗練されたデザインにより、生地メーカーとしてのブランドを逸早く確立した事で、現在にも続く強固な営業基盤を築き上げました。

近年の動き

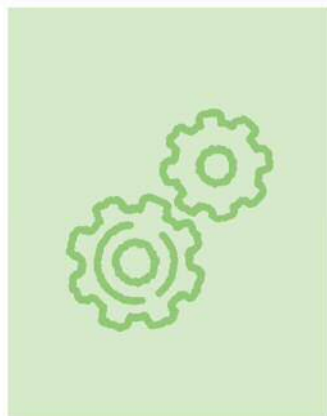
2015年には国内外の製造体制再構築や販売体制の見直しを実施し、利益重視の筋肉質な事業構造に生まれ変わりました。さらに2016年には戦略推進統括部を創設。販売・開発・マーケティングが連動する体制を構築し、ニッケ独自の売れる商品・サービスの開発販売の拡大に取り組んでいます。

主な事業内容

- 原糸開発・製造・販売
差別化されたニッケオリジナル原糸のご提供
- スクール・ビジネスユニフォーム用途の素材・製品の開発・製造・販売
Nagaragawa糸(インスパイラルスピン製法、特許取得済み)で織られた新素材“MIRAZ”に代表される革新的素材のご提供
- ファッション素材開発・製造・販売
ニュージーランド原毛を使用した“MAF”GOLDEN MAFに代表される最高級素材のご提供



事業概要 産業機材事業



産業機材事業

成り立ち・変遷

産業機材事業は繊維工場の修繕部門が独立し発展した(株)ニッケ機械製作所、フェルト製造・販売のアンピック(株)、様々な分野に糸を提供する(株)ゴーセンの3つのグループ会社で構成されます。エンジニアリング事業と資材事業の融合により多様な人材と技術を結集しました。

近年の動き

2015年までに各社とも構造改善を実施し、国内市場が成熟する中でも利益を確保できる高収益な体制の確立に取り組みました。既成概念にとらわれない開発を積重ね、新たな市場を開拓に取り組んでいます。

主な事業内容

- ウールから化繊、糸から紐・フェルト・不織布などの開発・製造・卸売
- 産業用機器の設計・製造・販売
- 環境・エネルギーシステムの設計・施工・メンテナンス
- 産業用資材事業、生活用資材事業
- 産業用EA事業、画像事業、エネルギー事業



事業概要 人とみらい開発事業



人とみらい開発事業

成り立ち・変遷

人とみらい開発事業は「街づくり」を主眼とした地域共生型のサービス提供および不動産開発を行っています。昭和50年代において、衣料繊維国内市場の成長鈍化や為替相場の自由化等の影響で、繊維産業の優位性が失われてきた時代を背景に、繊維に次ぐ第2の柱を育てるべく当事業を本格化しました。

近年の動き

現在では商業施設運営事業や不動産事業を柱とした安定収益事業とともに、介護や保育、ソーラー発電事業等、地域社会のニーズに根差した事業を積極的に展開しています。2015年には通信・新規サービス事業を当事業に移管し、一層のシナジー効果を図るべく拠点開発とコンテンツの融合に取り組んでいます。

主な事業内容

- 「街づくり」を主眼とした地域共生型のサービス提供および不動産開発
- 介護事業、スポーツ事業
- 商業施設運営事業、不動産事業
- ソーラー発電事業
- 携帯電話販売事業
- キッズランド事業、アイスクリーム事業、ビデオレンタル事業
- 菓子販売事業、アミューズメント事業、その他新規事業



事業概要 生活流通事業

ニッケグループ



生活流通事業

成り立ち・変遷

生活流通事業部は商社機能を活かしたグループ内外に対する販売・物流サービスを通じて、生活者に近い所にある豊かな暮らしを提供しています。祖業である毛布の製造販売を取り扱うニッケ商事(株)をベースに、平成20年12月に事業部として発足しました。

近年の動き

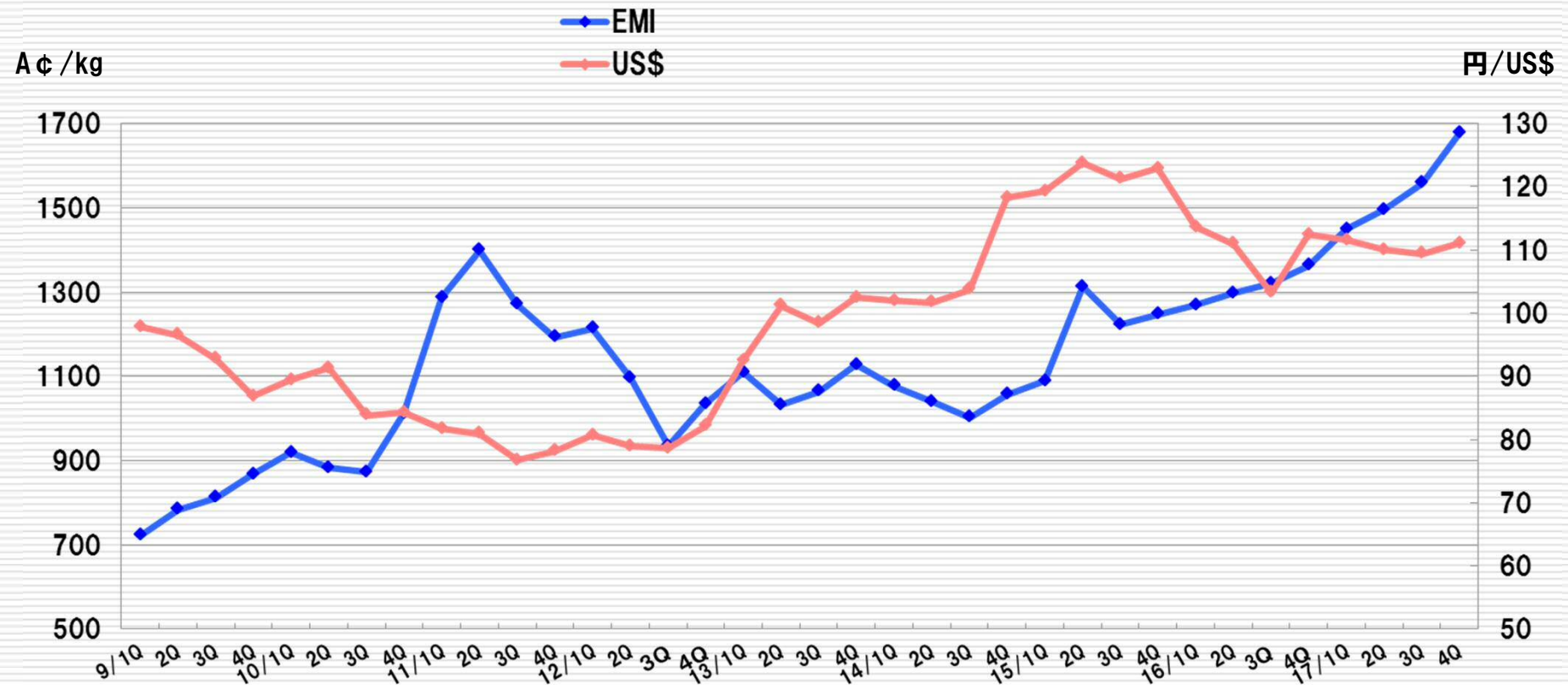
当初は3つのグループ会社で構成されていましたが、M&A等による事業拡大で、現在は9つのグループ会社で構成されています。直近では2016年に家具卸・販売のミヤコ商事とホビー関連のこどものかおを新たにグループに加え、新たな価値・市場の創造に取り組んでいます。

主な事業内容

- 寝装品、イージーオーダー、手編毛糸、100円ショップ向け卸売
- 馬具・乗馬用品、社交ダンス用ドレス、コンテナ事業
- ホビークラフト事業（スタンプインク、スタンプ用品）
- ネット販売（寝装品、家具、雑貨）
- 保険代理店事業
- 物流事業



羊毛相場・為替相場の推移について



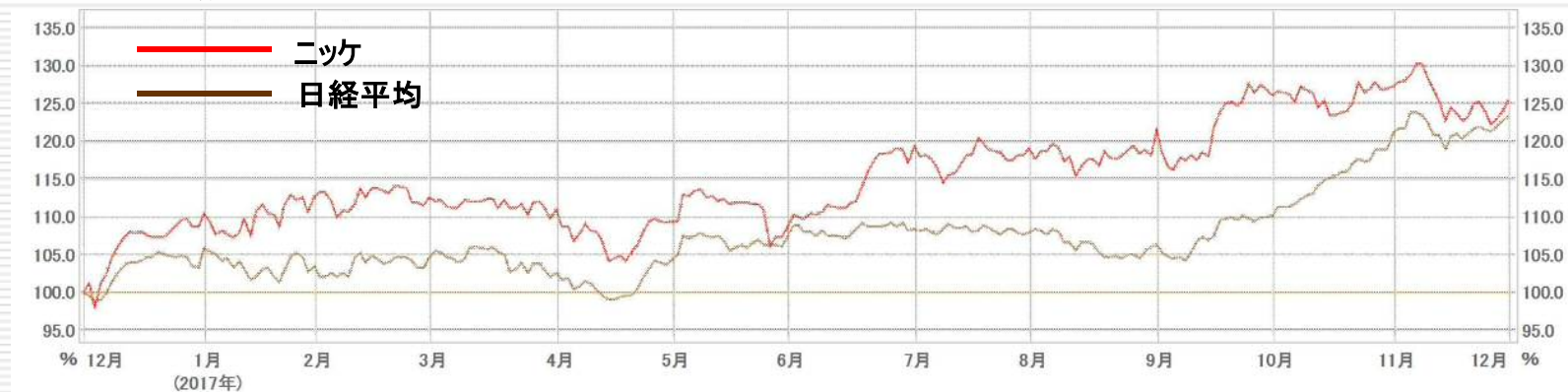
株価チャート 期間:2016/12/1~2017/11/30



<当社株価チャート>



<日経平均比較チャート>



**IRに関するお問い合わせ
ニッケ(日本毛織株式会社)
経営戦略センター総務法務広報室
TEL 06-6205-6601**

本資料中の業績予想、見通しおよび事業計画についての記述は、本決算発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、記載された将来の業績を保証するものではありません。